



湖月抄

田中  
九





寄生

宇治

細巻名と奇ととく号と益一名魚名ハハ名の色と

実一にうふやとあひととらてきくそしけぬやどりおと

ちひおどは木のみの後ねらうよきひーくうー花やどり

本ん奇よあり洞よいこやまよまよしりしりけこのくくわり

やどり本ん木のあやとり物と蕪あよ葉寄生とくわり葉

の本よせまこと又楓の樹ももせまとはををやどりあとりん

本ようわつ地をれを名ととりてしりまここのやどりまに

そあ〜と〜と意の年齢ハ花の正位誤られハ不語と

細 葉北三より北四又葉ま〜三ヶ年ののりありハゆん子蕨

の巻よりと葉のま〜推つ中れま〜り角総子蕨のまを

こりわりまを〜と〜と葉のまを〜と〜とせり〜と

















細中務の  
 親王今上御まじり  
 の親王の當代の親王に  
 他は孟上卿のみ一人  
 の系圖のみみむと推すも  
 一、中納言孫頼房のり  
 りり、孟上卿のりりりりり  
 と附く人の官姓りりり  
 孫とくくのりりりりり  
 孫曰  
 けふりりりりりりりりりり  
 りりりりりりりりりりりり  
 孫の西國のりりりりりり  
 孫をりりりりりりりりりり

細中務の  
 親王今上御まじり  
 の親王の當代の親王に  
 他は孟上卿のみ一人  
 の系圖のみみむと推すも  
 一、中納言孫頼房のり  
 りり、孟上卿のりりりりり  
 と附く人の官姓りりり  
 孫とくくのりりりりり  
 孫曰  
 けふりりりりりりりりりり  
 りりりりりりりりりりりり  
 孫の西國のりりりりりり  
 孫をりりりりりりりりりり

細中務の  
 親王今上御まじり  
 の親王の當代の親王に  
 他は孟上卿のみ一人  
 の系圖のみみむと推すも  
 一、中納言孫頼房のり  
 りり、孟上卿のりりりりり  
 と附く人の官姓りりり  
 孫とくくのりりりりり  
 孫曰  
 けふりりりりりりりりりり  
 りりりりりりりりりりりり  
 孫の西國のりりりりりり  
 孫をりりりりりりりりりり

細中務の  
 親王今上御まじり  
 の親王の當代の親王に  
 他は孟上卿のみ一人  
 の系圖のみみむと推すも  
 一、中納言孫頼房のり  
 りり、孟上卿のりりりりり  
 と附く人の官姓りりり  
 孫とくくのりりりりり  
 孫曰  
 けふりりりりりりりりりり  
 りりりりりりりりりりりり  
 孫の西國のりりりりりり  
 孫をりりりりりりりりりり



花朗詠傳傳園中ニ花  
 養艶請君許折一枝  
 春此詩のそ息女を  
 花は喻つり師は出舟  
 におよぶくぐりくぐり  
 ともてまはれとの多うり  
 よえ々のいひ花と二枚ゆり  
 さいちちやう  
 よのつゆの 細雲の六色  
 ともくぐりくぐり 師出舟  
 の花うれれをまうくくの  
 まよはにかりとくぐりぬく  
 よままのそ二島のゆり  
 りくぐりくぐりくぐり  
 君はあつと 細女三々  
 母女はとくぐりくぐり  
 よままのそ二島のゆり  
 一八園のうらゝゝ母女  
 と園よくぐりくぐり  
 菊より比くぐりくぐり  
 つるかり  
 ともくぐりくぐり 細女三々  
 今もよあつとくぐりくぐり

ともこの路をまわれの  
 つるかりくぐりくぐり  
 ぬり  
 よのつゆの  
 のまののりくぐりくぐり  
 枝葉くぐりくぐり  
 くぐりくぐりくぐり  
 人くぐりくぐりくぐり  
 せられくぐりくぐり  
 めもあつとくぐりくぐり

の太君の守老よゆりくぐり  
 花月益々芳よりくぐり  
 六君のゆりくぐり  
 ひかりのゆりくぐり  
 細世のゆりくぐり  
 よゆりくぐりくぐり  
 地のゆり  
 くぐりくぐりくぐり  
 くぐり 細人くぐり  
 とも女二のゆりくぐり  
 九大臣殿 細古幸作  
 花可也とくぐりくぐり  
 鳴るは改定 花多のそ  
 夕芳のいれ大臣くぐり  
 分物のかく 花多芳の  
 竹川巻くく大臣くぐり

おとくぐりくぐりくぐり  
 めくぐりくぐりくぐり  
 よくぐりくぐりくぐり  
 ひくぐりくぐりくぐり  
 ぐくぐりくぐりくぐり  
 女二のゆりくぐり  
 鳴るは改定  
 夕芳のいれ大臣  
 分物のかく  
 竹川巻くく大臣



































































一五  
孟中君の心へ八丈とね  
てしんがらそとつたど  
こあつとつたあつたの  
まもまもこめてこ

うらつたあつたあつた  
あつたあつた 孟母君よん  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた















いふくくも 面白きの  
細きやうきよひの  
あつと下はのあつと  
しほきくもうらも  
やうきよひのあつと  
すむもあつとあつと  
よきさやうきよひの  
のあつと 解中まの  
のうらとあつとあつと  
らうきよひのあつと  
さやうきよひのあつと

合中まの 細き世を  
あつとあつとあつと  
は世のあつとあつと  
れは世のあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと

あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと

あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと

あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと

あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと  
あつとあつとあつと























もあつてはあり又織物も貴くその平絹は故よりありとあり  
の多き事也 細法令のあはれいふもさうもあつては故よりありとあり  
りつとあり  
細陸の石塔に親王家  
へ御さるる遊の遊  
御しつとありハ御三門の舎  
人ハ花西宮抄云院宮  
御難事ノ中御臨身  
御夜行召継養時云  
今案親王家有召継武  
部御を明親王嫁娶之  
時召継以下錢二方を  
極は終り上の紀よん  
えつとあり白文のゆき  
よあつてはありハ文和足  
院御陸院の御ゆきと  
しつとありとありとありとあり  
しつとありしつとありとありとあり  
御一麻舎人ありとあり  
中納言殿の御せんありとあり  
よ 細物殿の御ゆき  
りつとあり

しまつりけるがしつとありとありとありとありとあり  
縁のゆきとありとありとありとありとありとあり  
しつとありとありとありとありとありとありとあり  
細草とありとありとありとありとありとありとあり  
けしつとありとありとありとありとありとありとあり  
ひわれは御ゆきとありとありとありとありとありとあり  
わわれんざれとありとありとありとありとありとあり  
たりとありとありとありとありとありとありとあり  
御ゆきとありとありとありとありとありとありとあり  
しつとありとありとありとありとありとありとあり  
益差の御ゆきとありとありとありとありとありとあり  
わが殿の御ゆきとありとありとありとありとありとあり  
よしつとありとありとありとありとありとありとあり  
おまの御ゆきとありとありとありとありとありとあり

あつてはありとありとありとありとありとありとあり  
三 白の御ゆきとありとありとありとありとありとあり  
御ゆきとありとありとありとありとありとありとあり  
まよりとありとありとありとありとありとありとあり  
とありとありとありとありとありとありとありとあり  
白文の御ゆきとありとありとありとありとありとあり  
不吉とありとありとありとありとありとありとあり

たは御ゆきとありとありとありとありとありとありとあり  
色女とありとありとありとありとありとありとありとあり  
白文とありとありとありとありとありとありとありとあり  
わしつとありとありとありとありとありとありとありとあり  
うしつとありとありとありとありとありとありとありとあり

あつてはありとありとありとありとありとありとあり  
おのゆきとありとありとありとありとありとありとあり  
んてとありとありとありとありとありとありとありとあり  
ねんてとありとありとありとありとありとありとありとあり  
りてとありとありとありとありとありとありとありとあり  
もつとありとありとありとありとありとありとありとあり  
くつとありとありとありとありとありとありとありとあり  
うわつとありとありとありとありとありとありとありとあり  
とありとありとありとありとありとありとありとありとあり  
やの御ゆきとありとありとありとありとありとありとあり  
まの御ゆきとありとありとありとありとありとありとあり  
しつとありとありとありとありとありとありとありとあり











けははやくして心ゆく  
いし 肝夕暮れ自傍  
あしこ人のあやめ  
Amara

よのこし 相とと殺  
ここのこし ちりちり  
ふらん 花も尻若  
とらり也何 孟好殺  
夕暮のこし 孟好殺  
こし ちりちり  
こし ちりちり

よのこし 相とと殺  
ここのこし ちりちり  
ふらん 花も尻若  
とらり也何 孟好殺  
夕暮のこし 孟好殺  
こし ちりちり  
こし ちりちり

三白の夕暮の六多  
よのこし ちりちり  
こし ちりちり

いし ちりちり  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ

しんがさし げはめわめくはらさ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ

あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ

あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ

あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ

あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ

あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ

あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ

あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ

あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ  
あしこ人のあやめ



















何れ世のゆくへもさきごとく  
しる 三白へに及ぬ  
しる 白もくけいも  
あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

中絶とひるし 何れ  
くさぶさなありとてし  
男もさきよのふは對  
あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり  
あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

あまきさきとるふと板  
あつねまじりもせむり  
ゆんり

由九月十八日

百十











まじりてさうして白はく  
くしてさうして白はく  
はばらうじんさうして  
くさばらうじんさうして  
まじりてさうして白はく  
はばらうじんさうして  
おまじりてさうして

いりてよ 細考とるまじり  
とありてさうして  
いりてよ 細考とるまじり  
とありてさうして  
いりてよ 細考とるまじり  
とありてさうして

まじりてさうして白はく  
くしてさうして白はく  
はばらうじんさうして  
くさばらうじんさうして  
まじりてさうして白はく  
はばらうじんさうして  
おまじりてさうして

まじりてさうして白はく  
くしてさうして白はく  
はばらうじんさうして  
くさばらうじんさうして  
まじりてさうして白はく  
はばらうじんさうして  
おまじりてさうして

いりてよ 細考とるまじり  
とありてさうして  
いりてよ 細考とるまじり  
とありてさうして  
いりてよ 細考とるまじり  
とありてさうして

いりてよ 細考とるまじり  
とありてさうして  
いりてよ 細考とるまじり  
とありてさうして  
いりてよ 細考とるまじり  
とありてさうして

いりてよ 細考とるまじり  
とありてさうして  
いりてよ 細考とるまじり  
とありてさうして  
いりてよ 細考とるまじり  
とありてさうして































えんよそくろくさびく花  
の夢よりてあそびのく  
盃白の優艶のまじり  
よて人よとんごらむ心  
なうらぶと人よとん解  
風流まどのこめくさ  
しよふ人の中よはは  
ふごうううと人よま  
めやうやうううもあ  
くひまふとんごらむ  
むく花の夢を歌く  
あどつる句めく  
ゆりちと人のこめるわ  
細白文の中よと一  
あそよよりてそそそ  
こそんぐん多んとそ  
そそやまじ 所好きの  
れん白文のゆめのどそ  
そそそそや 細不星よ

いづいゆが  
こころはゆが  
らありて  
流りぬ  
のつゆ  
ゆが  
かれ  
やう  
そあり  
ぢや  
とま  
わが

ゆめれとそとハ  
とん 盃ニモ 中君の乳母の不  
足よのひるそそそと  
せりさうと白文の中よ  
かめやうとそそそ  
くひまふとんごらむ  
よ細やうとハ  
のゆめれとそとハ  
らりげよとそそそ  
松竹花とそそそ  
そそそそ人  
そそそそ  
そそそそ  
中君よあまづ  
どまづ  
わとまづ  
ねは  
てが  
そそ

あまづ  
中君  
わと  
ねは  
てが  
そそ







とよまがらよえつれつ

つやうらふんみるあはじ  
細啓新糸の人をこ  
仰ぐどめてわくうんま  
とよハ中君のふとさほ  
まじり

この人もうらふん  
盆くりのたまのおんせ  
ふともくげどちと中  
まのん  
はついでとくうさ  
三句まの心のうらふも  
まのふけくう  
とく中君のん

やうてこには  
おのふよあまうん  
とあうどてと  
おまごさふく

ちりませふおし  
細うらうの何醫師信  
まのふらふみ  
盆はかひのけのま  
信まのまうにまの  
うひうてもまう  
しとやとん信信  
おおまの町のま

一敷地の  
まの中まうらう  
ひとまうらう

とよまがらよえつれつ  
つやうらふんみるあはじ  
細啓新糸の人をこ  
仰ぐどめてわくうんま  
とよハ中君のふとさほ  
まじり  
とよまがらよえつれつ  
つやうらふんみるあはじ  
細啓新糸の人をこ  
仰ぐどめてわくうんま  
とよハ中君のふとさほ  
まじり  
とよまがらよえつれつ  
つやうらふんみるあはじ  
細啓新糸の人をこ  
仰ぐどめてわくうんま  
とよハ中君のふとさほ  
まじり  
とよまがらよえつれつ  
つやうらふんみるあはじ  
細啓新糸の人をこ  
仰ぐどめてわくうんま  
とよハ中君のふとさほ  
まじり

とよまがらよえつれつ  
つやうらふんみるあはじ  
細啓新糸の人をこ  
仰ぐどめてわくうんま  
とよハ中君のふとさほ  
まじり  
とよまがらよえつれつ  
つやうらふんみるあはじ  
細啓新糸の人をこ  
仰ぐどめてわくうんま  
とよハ中君のふとさほ  
まじり  
とよまがらよえつれつ  
つやうらふんみるあはじ  
細啓新糸の人をこ  
仰ぐどめてわくうんま  
とよハ中君のふとさほ  
まじり  
とよまがらよえつれつ  
つやうらふんみるあはじ  
細啓新糸の人をこ  
仰ぐどめてわくうんま  
とよハ中君のふとさほ  
まじり  
とよまがらよえつれつ  
つやうらふんみるあはじ  
細啓新糸の人をこ  
仰ぐどめてわくうんま  
とよハ中君のふとさほ  
まじり







































































三 かわらねど下よ物と  
あふらしむしきまひく後  
へ中表の方より表を  
許容しきやと

わさささ 細中表は白  
まのふ乃うりはまより  
うまより 並白の奇の  
意と教へてくしてあそ  
りつばあひあまよふと  
うまれよりよと中表  
のよわり 師あはれく  
るら帯裁とわりも  
くく 六君へ白のあそ  
してうらものうらふ  
とより

細中表のうら 盆中表の  
くく 火あれはくくそ意  
もらきくけらうくめ  
と白のあそ  
うらひくく 細中表は  
うらぬとより 樹あう  
よ色のあそれむのあ

尾花の町かゆく叶  
花のうらひは 細中表は  
不是花中偏を菊の  
同後更 花え積

あまーこころひはれめ  
て 細 西宮の左府の  
し 教をうくねど玉珠  
よとりてくくそ意  
代はハ宮橋をくもるけ  
れぬ曲もるくくそ  
は 西宮元太は庭前二  
物降 居樹上 詠前遊  
小児 詠此詩 教作者  
本意 畫字 兼 請 筆  
授 秘 手 曲 小 児 醒  
麻 兼 武 之 冥 也 授 十 時 天  
九 石 上 流 泉 曲  
人 狂 逸 也 亦 人 一 一 一  
くく 秘 意 の 物 降 一 一 一  
藤 兼 武 之 冥 也 師 秘 意  
の 物 降 今 の 世 一 一 一  
くく 秘 意 一 一 一 細 中 表 乃  
初 面 白 細 中 表 乃 一 一 一  
あ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

とて 終つてららひいさしはまてのつまより  
細中表懐妊の時か 並白  
けくそくよらりらるそあめうよさし  
まふいしはあしらうらうらげちり

中  
林うらうのべきれもあのだくさる乃  
めく風よつけくそあれりかひひとの  
うらうらうらうらうらうらうら  
とて 終つてららひいさしはまてのつまより  
あふらしむしきまひく後  
へ中表の方より表を  
許容しきやと

よこそ人こえゆひとあひいさしはまてのつまより  
うらうらうらうらうらうらうらうら  
菊れきくくもらうらひひとあひいさしはまてのつまより  
うらうらうらうらうらうらうらうら

ひくめしあうあらんいさしはまてのつまより  
ひくめしあうあらんいさしはまてのつまより  
よひくめしあうあらんいさしはまてのつまより  
三 西宮元太は庭前二  
これ花めくくそ意  
あそびひのひもくくそ意

くわたりよら世の物くやとてはくくそ意  
の教をうくねど玉珠  
よとりてくくそ意  
代はハ宮橋をくもるけ  
れぬ曲もるくくそ  
は 西宮元太は庭前二  
物降 居樹上 詠前遊  
小児 詠此詩 教作者  
本意 畫字 兼 請 筆  
授 秘 手 曲 小 児 醒  
麻 兼 武 之 冥 也 授 十 時 天  
九 石 上 流 泉 曲  
人 狂 逸 也 亦 人 一 一 一  
くく 秘 意 の 物 降 一 一 一  
藤 兼 武 之 冥 也 師 秘 意  
の 物 降 今 の 世 一 一 一  
くく 秘 意 一 一 一 細 中 表 乃  
初 面 白 細 中 表 乃 一 一 一  
あ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一



















































































いとまろくにこそあつて  
お葉のこころをさす  
るり

うらうして  
ささのあまんと老い  
とく

こころをうけておま  
多くと おかりくられ  
お葉の立のさくどい  
ゆきくうりてのぞく

ゆかりのうでいりも  
三がくのすくもさ  
の心とぬあゆみ  
解大くこころでうら  
とよめまうすあし  
と

おまがこころのく  
かたのこころをさす  
れどまうす人の  
多くとあつて早  
あつと

いとまろくにこそあつて  
孟 弁尼の懐米  
あつとまろくにこそあつて  
おまがこころのく  
かたのこころをさす  
れどまうす人の  
多くとあつて早  
あつと

いとまろくにこそあつて  
あつとまろくにこそあつて  
おまがこころのく  
かたのこころをさす  
れどまうす人の  
多くとあつて早  
あつと



















